

〈PR〉

カラダの 相談室

鳳仁会

Riyoメディカルクリニック

院長 上利 理代さん

第1回

未病を治す医療としての再生医療

未病を放置すると病名のついた疾患になってしまいます。未病状態の間に、細胞が本来持っている修復機能を生かした再生医療を行うことで再び健康な状態に戻すことが可能です。未病に対する再生医療は、健康な毎日を実現する医療です。

放置は確実に病気の状態に 幹細胞の再生能力を生かす

Q 未病とは―。
A 未病とは、健康から病気へと向かっている状態です。病院に行くほどでもないけれど、何となく不調と感じるのが未病状態です。

ヒトには適応能力があり、未病の段階では日常生活に支障はありません。しかし、そのままでは確実に何かしらの症状が出てきて、病気になります。

未病の段階で生活習慣を見直し、何らかの治療を加えれば、もう一度、健康で元気な状態に戻すことも可能です。これが未病治療・未病医療です。未病治療は次に起こる病態を予想し、先に何らかの手を打つことで、未然に病態発生を防止することです。体の状態変化をあらかじめ想定し対応する医学とも言えます。

Q 再生医療とは―。

A ヒトは約37兆個の細胞でできています。組織を保持するために幹細胞が存在します。ES細胞やiPS細胞という「多機能幹細胞」と、神経や血液や皮膚などで消滅した細胞の代わりを作る「体性幹細胞」があります。その幹細胞の機能を生かした治療が再生医療です。

患者さん自身の体性幹細胞を使う医療が第2種再生医療です。また、細胞の本来の機能を利用し、大きな操作を加えない技術で細胞培養を行う第3種再生医療があります。当院では第2種と第3種再生医療の認可を受けています。

第2種に分類される臍帯(さいたい)・歯髄(しずい)・脂肪由来の体性幹細胞を培養する過程では、「幹細胞培養上清液(じょうせいえき)」が採取できます。この上清液には、細胞間の情報伝達をするエクソソーム(細胞から分泌



される極小の顆粒状の物質でタンパク質や核酸などを含む)や成長因子などの有効成分が多種にわたり多く含まれており、幹細胞治療に準じた方法にのっとり治療に用いています。

Q 未病を治す再生医療とは―。

A 未病を放置していると、糖尿病など代謝疾患や循環器疾患に陥っていきます。未病の段階で、疾患ごとに効果的な体性幹細胞や幹細胞培養上清液を投与することで、機能を正常に近い状態に戻すことが可能です。

例えば、視力低下の原因の一つに、血液循環の悪化が挙げられます。しかし、命に関わる状態ではないため、保険治療対象にはなりません。再生医療で血管の機能を修復できれば血液循環の改善が望めます。冷え性や男女更年期障害についても同様です。

第2種再生医療治療は、詳細な問診のち同意書をいただき、感染症などの検査を行います。脂肪採取は、ベッド上で腹部から点滴の針のような器具で行うため、10分程度で終了します。採取した脂肪は即座に院内培養施設に運ばれ培養開始します。4〜6週間の培養後に、品質安全検査を行い、点滴投与します。エクソソーム治療は培養上清液を用い、約15分程度です。患者様ごとに最適な上清液を選ん

で投与しています。これらの治療は自由診療で、費用は直接お問い合わせください。

当院では、病気ではなく患者さんを診させていただく、全人的な医療を目指しています。未病を再生治療という最先端医学で改善し、よりよい毎日の後押しとなればと思っています。(次回痛みに対する再生医療)



あがり・まさよ 高知医科大学(現高知大学)医学部医学科卒業。その後岡山大学医学部放射線科、岡山赤十字病院、びわこ成蹊スポーツ大学(主任教授)などを経て令和4年Riyoメディカルクリニック院長。再生医療医、統合医療医、放射線治療専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター。

☆鳳仁会 Riyoメディカルクリニック 大阪駅前第2ビル2階 19の1の1号
TEL 06・6347・5177 <https://ryo-medical-clinic.com>